



ひるの星

No. 247

もくじ

天使ガブリエルの言葉.....	2
モハメットの物語..... ^{ものがたり}	3
クイズ.....	14
ろうそく絵..... ^え	15
ぬり絵..... ^え	17
みんなの写真..... ^{しゃしん}	18
保護者のページ..... ^{ほごしゆ}	19

ふくしょう
“復誦せよ！”

なんじ しゅ
汝の主の

みな
御名において、

しゅ はい
主は胚から

にんげん せいめい
人間の生命を

たんじょう
誕生させた”



モハメットのお話^{はなし}

よく晴れた土曜日の午後、子どもたちがお母さんと一緒に公園に

向かっていた。

すると、モナが突然言いました。

「昨日社会科のクラスでアラビアについて勉強したのよ。イスラム教が教科

書に出ていたの。それってモハメットの宗教^{しゅうきょう} でしょう？モハメットは

アラビア人なの？」

アニサと野の花を摘んでいたお母さんが顔をあげて答えました。

「そうよ、それについておもしろいお話^{はなし}

があるわ。モハメットの祖先^{そせん}がアラビア

に住むためにやって来たお話^{はなし}よ。

祖先^{そせん}の始まりの預言者^{よげんしゃ}アブラハムに

はイシュマエルという息子^{むすこ}がいて、彼^{かれ}と

彼の母^{かれ}はアラビアの砂漠^{さばく}をさまよう

運命^{うんめい}にありました。水^{みず}もないようなところ

で、まさに死ぬかもしれない状況^{じょうきょう} でした。まだ少年^{しょうねん} だった息子^{むすこ}を思い母親^{ははおや}

は助けを求めて祈^{いの}りました。そのとき天使^{てんし}ガブリエルが現^{あらわ}れて砂漠^{さばく}の一ヶ所^{いっかしよ}を

指^{ゆび}さすと、そこから突然^{とつぜん}水^{みず}が湧^わき出^でました。その泉^{いずみ} はザムザムとよばれ、命^{いのち}の





いずみ
泉とされました。イシュマエルとその子孫はこの泉の恵みを

う つ 受け継ぎ、アブラハムは泉の近くに四角い大きなカアバ神殿を

た 建てました。人間の始祖アダムがアラー(アラビア語で神様)に祈りを捧げる最初

の場所として使った黒い石をアブラハムがその中に入れました。

「その場所は聞いたことがある！」とアスマが言いました。

「イスラム教の巡礼者がその周りを歩いて回るんだろ。」

お母さんが続けました。

「最初にイシュマエルとその子孫がアラー(神様)を礼拝しました。でも、残念な

がら少しずつ偶像崇拜に変わっていきました。そして、不思議なことに命の泉

も枯れていきました。そして、ついに消えてしまい、誰もザムザムの確かな場所

が分からなくなりました。」

「ザムザム！変な名前！」とリアズが叫びました。

「リアズ！うるさい！静かにして、話の続きが聞こえないじゃないの！」とシャ

ラが言いました。

「というわけで、長い間メッカには水がありませんでした。人々は水を運ぶた

めに、毎日町までの長い道のりを行き来しなければなりませんでした。

モハメットの祖父はイシュマエルの
直系の子孫で、神様のとても強い信者
でした。その頃メッカのほとんどの人
は偶像崇拝者でした。祖父はザムザム
を見つけてメッカに命の泉をよみが



えらせようとしていました。それが出来ると信じていました。というのは、人々
が神のところに戻れば、命の泉がよみがえるという預言があったからです。

そして、祖父はモハメットが生まれた頃ザムザムを見つけたのでした。モナが
感動して言いました。

「わあ、それって二つの意味が重なったってことね、お母さん。命の泉っ
て私たちの生命を支える水のこともあるけど、モハメットの神の新しい教えの
こともあるのね。」

お母さんがモナの方を見て、にっこりほほ笑みながら続けました。

「そのとおり！お父さんはモハメットが生まれるすぐ前に亡くなりました。

お母さんは生まれて間もないモハメットを砂漠に住むベドウィンの若い

お母さんに預けました。これはメッカの裕福な女性のあいだにあった習慣でし
た。メッカは空気が悪く赤ちゃんが死ぬかもしれないからでした。」

「ああ、赤ちゃんが可愛そう！ママから離されて…」とアニサが言いました。

「大丈夫。ベドウィンのお母さんはモハメットを自分の息子のように可愛がるんだから。」とお母さんが説明しました。「ベドウィンは動物やいろいろなものを行商しながら、砂漠をラクダに乗って旅をします。彼らは素晴らしい語り部であり、共同生活を好む心温かい人たちなのです。モハメットはその人たちと家族の一員として生活していました。彼が2才のころ、2、3才年上の義理の兄がテントに走って入って来て『二人の男が弟を痛めつけているよ！』と言ったので、モハメットの義母は砂漠に向かって走り行きました。部族の男たちもあとを追いました。モハメットは地面に仰向けになりとても弱っていました。義母が部族の男たちに二人の男を捕まえるように叫んだとき、男たちはとまどって立ちすくんでしまいました。なぜなら砂漠の砂の上には、モハメットの足跡以外なかったからです。義理の兄は、二人の男がモハメットの胸に手を入れて何かしていたと言いました。義母は息子を信じました。なぜなら、モハメットはどこかみんなと違っていただけです。誰よりも精神的にやさしかったのです。

「天使だ！天使がモハメットの胸に触っていたんだ！そうだよ、



お母さん！」とリアズが大声で言いました。お母さんがほほ笑んで続けました。

「モハメットは5才のとき実の母親と暮らすために生家に帰りました。でも、その後まもなくお母さんは亡くなり孤児になりました。」

「ああ、悲しい。私は悲しいお話はいやだわ。」とシャラが言いました。

再びお母さんがほほ笑んで続けました。

「彼のおじさんはモハメットを養子にして自分の息子のように育てました。

祖父もとても可愛がってくれたので、寂しくはありませんでした。モハメット

が6才になったある日、叔父はモハメットが、麦の穂をつついてネズミを

眺めているのを見ました。叔父が彼の側にくると、モハメットは『危険なこと

を知らないなんて。』と

言いました。叔父は、彼が何を言

っているのかさっぱり

わかりませんでした。するとモハ

メットは空を指さしました。叔父

は、空高くに動く小さな黒い物体



を見つけました。鷹でした！ネズミに襲いかかるチャンスを待っていました。」

「ああ分かった！」とアスマが言いました。

「ちょうど僕たちの人生と同じだね。精神世界を忘れて、物に囲まれた生活に

夢中になることがどれだけ危険なことか。」

「わ！アスマ、すごい！どうして分かったの？」とモナが聞きました。

「そりゃ、モハメットは神の顕示者だからね。言っていることには全部意味があるはず。たとえ子どものときでもね。」

子どもたちはみんなアスマに感心しました。お母さんが続けました。

「モハメットは叔父と共に、行商しながら町から町へとキャラバンで旅しました。ある日メッカに帰る途中、メッカの近くの洞穴に住むキリスト教の僧からメッセージが来ました。それは僧の洞穴で開かれる宴会に、キャラバンの人を全員招待するということでした。

男たちは全員行きましたが、叔父はモハメットを家に残しました。モハメットはまだ11才だったのです。その僧はこの一度の夕食に、これまで貯めたお金すべてを使い果たしました。僧は食事の間ずっと誰かを捜すように一人一人の顔をじっと見ていました。夕食が終わったとき彼はがっかりしていました。みんなが帰ろうとした時、叔父は僧に言いました。『ああ、ごめんなさい。このデザート(果実)は息子に持って帰るので。』これを聞いて僧は興奮してたずねました。

「なんだって？キャラバンにもう一人いたのですか？どうして連れて来なかったのですか？キャラバンの全員だと言ったはずなのですが！その人を連れて来



てください！すぐに連れて来ててください！』そこで叔父
はモハメットを連れて来ました。モハメットは恥ずかし
そうに叔父の後ろに立っていました。僧が言いました。

『これはあなたの息子ではない！この少年は誰ですか？』叔父が自分の甥だと
言いました。

僧が説明しました。『私はこの人をずっと待っていました。神がこう
いわれたのです。太陽のお顔が隠されたとき、神がその最後の預言者を連れて
来られる。実は今日、いつもは雲のないアラビアの空に一つの雲を見つけました。
太陽を覆うその雲は、あなたのキャラバンの一つのワゴンに影を落とし、砂漠の
遠くからメッカまでずっと付いてきました。そのワゴンにはこの少年が乗って
いたのですね。この方は聖書で予言された預言者です。』」

これを聞いて子どもたち手を叩きました。「やった！すごいね！」

お母さんが続けました。

「モハメットは大人になると叔父の行商をどんどん手伝うようになりまし
た。モハメットは『アル・アミン（信用ある人）』、とみんなから呼ばれるよう
になっていました。いつも貧乏な人や、弱い立場の女性や子どもたちの味方を
しました。」

シャラが、「ああ、バハオラと同じね。」そして、アスマが、「お釈迦様も同じ



だ！」リアズが、「^{けんじしゃ}顕示者だろ、^ああたり^{まえ}前さ！」と、みんな次々と
い
言いました。

^{かあ}お母さんが、「そのときは、モハメットが^{けんじしゃ}顕示者だと^{だれ}誰もまだ^し知

らなかつたのよ。『^{けんじしゃ}顕示者として^{あた}新しいメッセージを^{ひとびと}人々に^{つた}伝

えるように』と^{かみ}神から^い言われたのは、^{けっこん}カディジャと^{にん}結婚して4人

の^{むすめ}娘が^う生まれた^{あと}後、^{てんし}天使ガブリエルがモハメットの^{まえ}前に^{あらわ}現れた
たときだつたの。」

「^{ばあい}キリストの場合は、^{せんれいしゃ}洗礼者ジョンが^{せんれい}キリストに^{せんれい}洗礼をしてい

ると、^{しろ}白いハトが^{てん}天から^ま舞い^お降りた、そのときだつた。」と^{せつめい}モナが説明しました。

「そして、^{しゃかさま}お釈迦様は、^{ぼだいじゆ}菩提樹の下で^{した}瞑想^{めいそう}されているときだつた。」とリアズ

が^し知ったかぶりに^い言いました。

「^{くら}バハオラは、^{ろうや}暗い^{なか}牢屋の中のときだつた。」と^{ささや}シャラが囁きました。

「^{じぶんかって}モハメットは、^{よくぼ}メッカの自分勝手に^{くうき}欲張りの空気から^に逃げ^だ出して^{ほらあな}洞穴にい
たときだつた。」^{かあ}お母さんが^{つづ}続けました。

「^{てんし}天使ガブリエルがモハメットの^{まえ}前に^{あらわ}現れて『^{ふくしょう}復誦せよ！』と^い言いました。

^{さいしょ}最初、この^{たいへん}大変な^{しごと}仕事をもらわないようにモハメットは^{てんし}天使に^せ背を^む向けました。

^{こんど}今度は^{てんし}天使が『^{ふくしょう}復誦せよ！』と、^{つよ}強く^{めいれい}命令しました。モハメットは^{ふた}再び^せ背を^む向

けました。^{てんし}天使はモハメットに^だきつく^だ抱きついて、^{かみ}神の^{ちから}力を^だいっぱい出して、



shutterstock · 34334335

めいれい
命令しました。『復誦せよ！』

そこで、モハメットは何をしたと思う？」

子どもたち全員が叫びました。

「復誦した！」

お母さんが笑いました。「ちがう、しなかつ

た！モハメットは洞穴から走って

逃げ出して、ヒラ山に登っていきました。

頂上まで登って、ふもとに身投げをしよ

うとしました。神様の仕事をもらいたくなかったからです。しかし、眼下に

広がる景色のずっと遠くにメッカを見たとき、神様の力を吸いこんで、決心し

て…復誦しました！」

「やった！」と子どもたちが叫びました。

「ところで、お母さん、復誦って何のこと？」とリアズがたずねました。

「それはね、自分の言葉ではなく、神様の言葉で言うことよ。」お母さんが説明しました。

「モハメットは家に帰って、妻のカディジャに何が起きたか言いました。それを聞いて彼女は最初の信者になりました。部族と家族のほとんどと、叔父やいとこなど、みんなは敵対しました。なぜなら、モハメットは神がモハメット



とおしての述べられていることをみんなに話し、宇宙で神はただ一つだけと言ったからです。神はアラビア語でアラーと言ひ、モハメットは神の言葉を復誦しました。『アラーのほかに神はなし！』カアバのすべての偶像をすべて捨てるように言いました。これを聞いてみんなは怒りました。メッカの人々は、偶像礼拝のためあちこちの国から巡礼に来る人々への商売に頼っているのです。偶像を捨てたら巡礼者が来なくなって商売が成り立たなくなるのを恐れたからです。」

「わがままね！」とアニサが言ったのでみんな笑ってしまいました。

「モハメットとその信者はメッカから追い出されました。みんなメディナに逃げました。何年かのち、何百、何千という信者が従えてメッカに戻って来ました。そのときアダムとアブラハムが神を崇拝するために建てたカアバを取り戻しました。」

「やった！」と子どもたちが叫びました。

「モハメットの長い人生をとおして神が彼に伝えたことを復誦しました。モハメットの教えに五行というのがあります。それは：

1. 信教の宣言；アラー（神様）のほかに神はない、そしてモハメットは神の使徒である。
2. 毎日5回メッカに向かって神に祈る。
3. 貧乏な人を助ける。



4. 断食^{だんじき}をする。

5. メッカに巡礼^{じゅんれい}してカアバ^{しんでん}神殿^{まわ}を回る。」

お母^{おかあさん}さんが、「これで終わり^{おわり}。みんなどう思^{おも}った？何か質^{なに}問^{しつもん}がある？」といった

とき公園^{こうえん}に着^つきました。子^こどもたちは走^{はし}って、遊^{あそ}びに行^いきました。ボ^ボールで

遊^{あそ}んだり、草^{くさ}すべりをし^したり、ブランコ^{あそ}で遊^{あそ}びました。アニサ^{あにさ}だけはお母^{かあ}さんの

手^てを取^とって側^{そば}にいました。

「アニサ、何^{なに}も質^{しつもん}問^{もん}がないのね。」と笑^{わら}っていいました。「ブランコ^{あそ}で遊^{あそ}ぼう。」

「やった！」とアニサ^{あにさ}がいいました。

みんな^{みんな}が楽^{たの}しい一^{いち}日^{にち}を過^すぎました。



クイズ

1. アブラハムの息子イシュマエルに生命の水を持って来たのは誰ですか？

2. それはどこでしたか？

3. モハメットが5才になるまで彼を育てたのは誰ですか？

4. 麦の穂を食べていたネズミのことをモハメットは何と言いましたか？

5. モハメットが特別だとキリスト教の僧はどうして分かったのですか？

6. 洞穴で天使ガブリエルはモハメットに何をしよう言いましたか？

7. モハメットが神の声とお話したということを最初に信じたのは誰ですか？

8. モハメットが神のことを教えるのを妻以外の家族は喜びましたか？

9. モハメットの教えで一番大切と言われる「5行」とは何ですか？

どうでしたか？全部答えられましたか？

答えは保護者のページのお話にあります。



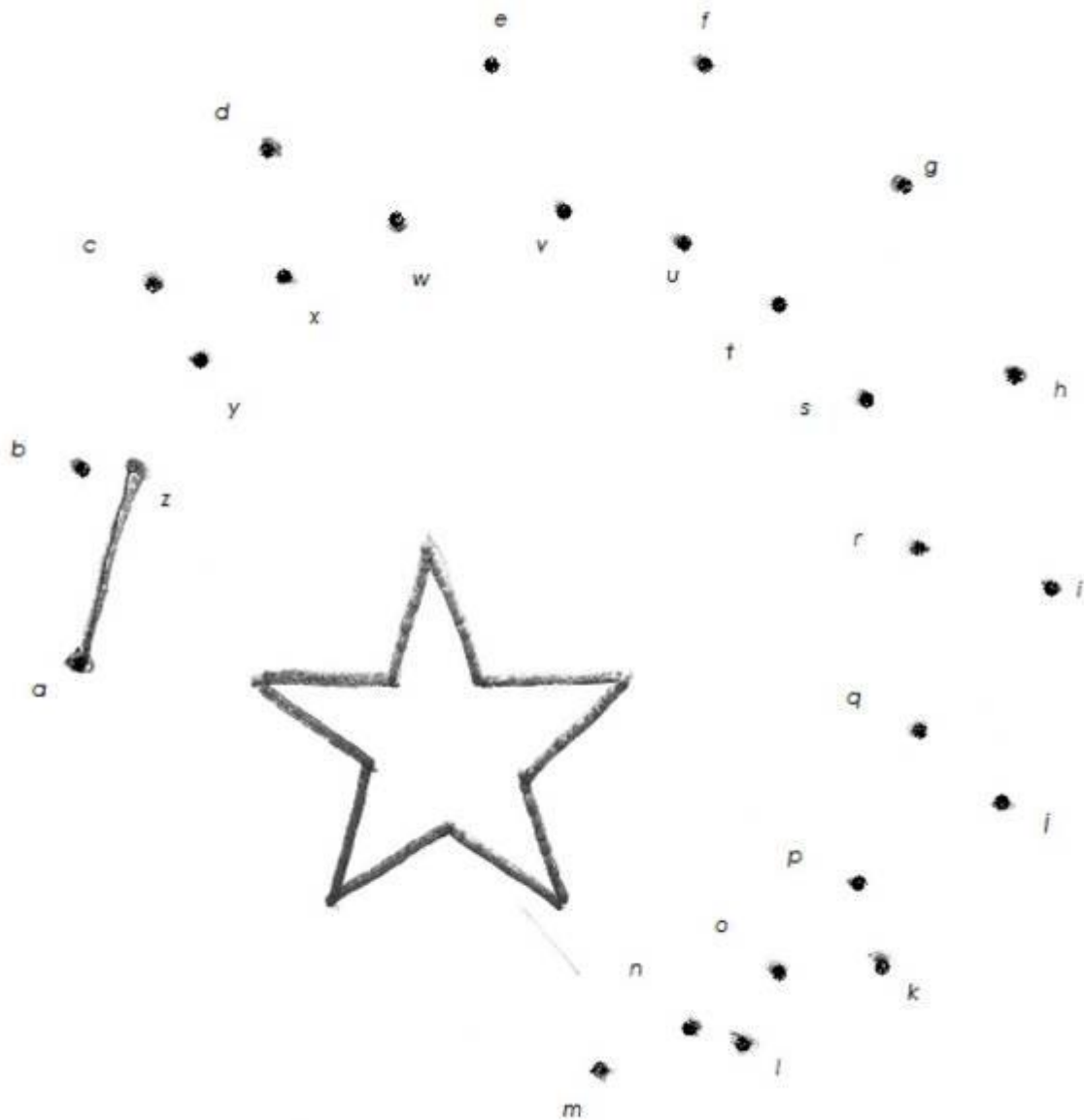
ぬり絵

a から b へ....

b から c へ....

点を全部つないで絵を完成してみましょう。

絵はイスラム教のシンボルの一つ。



ろうそく^え絵

ざいりょう 材料

A4 コピー用紙一枚 ^{ようしいちまい}

しろ ^{ほそなが} 白く細長いろうそく ^{いっぽん} 一本

^え 絵の具 1 2 ^{しよく} 色

^{えふで} ^{ほん} 絵筆 1 本

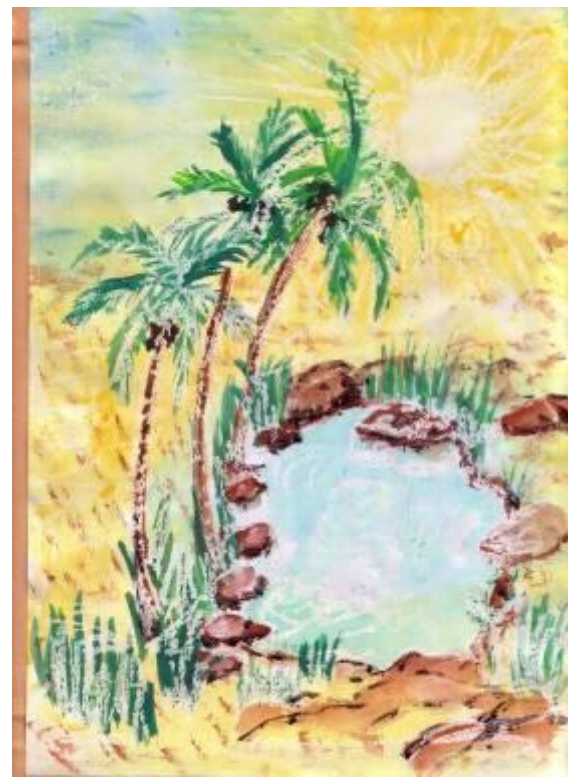
ティッシュ

テープ

^{もぞうしいちまい} 模造紙一枚、^え ^{だいし} 絵の台紙となる

つく ^{かた} 作り方

1. ^{まど} ^{つぎ} 窓に次のページの^え 絵をテープでとめる。
2. ^え ^み 絵が見えるように A4 コピー用紙を^え ^{うえ} 絵の上^{うへ}にのせて、テープでとめる。
3. ^{しろ} 白^え いろろうそくで絵をなぞる。 ^{いずみ} ^{みず} ^{たいよう} 泉の水と太陽はぬりつぶす。
4. ^え ^ぐ ^え ^か 絵の具で絵を描く。そのとき ^{たいよう} ^{すな} ^{そら} ^{ひろ} 太陽、砂、空などの広いところは ^{えふで} ^か 絵筆の代わりに ^{みず} 水をふくませたティッシュでいろいろな ^{いろ} 色をつけてぬる。 ^{おな} 同じティッシュで ^{ちが} ^{いろ} ^{まざ} 違う色が混ざってもよい。おもしろい ^{いろ} ^で 色が出てきて ^{たの} 楽しくなる。たとえば ^{あお} 青と ^{しろ} 白をつけて ^{そら} ^{いずみ} 空と泉を、 ^{きいろ} ^{しろ} 黄色と白をつけて ^{たいよう} ^{すな} ^か 太陽と砂を描くとか。
5. ^{せま} ^{ほそ} 狭くて細いところは ^{えふで} ^{つか} 絵筆を使う。
6. ^え ^{もぞうし} ^づ 絵を模造紙にのり付けする。 ザムザムってこの ^え 絵のようかな？







みんなの^{しゃしん}写真





保護者のページ

神聖な、生命の泉の水は神の顕示者の口から人類に伝えられるとき甘く純粋です。その生命の水が山頂から流れ落ちてくるとき、ある人はそれで手を洗います。下流にいくと、ある人は水浴びをします。またある人は洗濯をします。さらにもっと下流にいくと、羊飼いに導かれて羊の群れがその水に集まって来ます。下流にいくにつれて、より多くの人々がその水を使うようになって水はどんどん汚れてきます。最初は水晶のように清く澄んだ水もその姿が分からなくなります。

こういうことはユダヤ教、ヒンズー教、仏教、キリスト教、イスラム教など、どの宗教にも起こります。神の顕示者が現れて年数が経つと、人々はその教えを曲げてしまいます。これで宗教戦争が起こります。どの顕示者も人々に愛と平和と奉仕の大切さを教えているはずで、たとえばモハメットはユダヤ教徒もキリスト教徒もイスラム教徒と同じ聖書を学ぶ兄弟だと教えています。モハメットは武器を持たない、純粋で無垢な女や子供、老人や労働者などを殺してはならないと教えました。

戦争を仕掛けて来る戦士だけは仕方がないと言われました。これは今日人々が考えているイスラム教のイメージと大分違うと思います。

神の顕示者、モーゼ、ゾロアスター、ブッダ、キリスト、モハメット、バブ、とバハオラなどの生き方や聖なる教えを子供たちに教えていくのは、とても大切です。宗教の違いから人々が互いに傷つけあうのは間違っていて、その宗教の教えではないと子供たちが分かって来ます。

そして宗教が一つとなり、人類が兄弟姉妹として和合する大切さに気付きます。

クイズの答え

- 1) 天使ガブリエル 2) アラビアの砂漠 3) ベドウィンの若いお母さん 4) 「危険なことを知らないなんて。」
5) 雲が預言どおりモハメットのワゴンに影を落として、その影はワゴンについていきました。 6) 天使ガブリエルはモハメットに「復讐せよ！」と言いました。
7) モハメットの妻・カディジャ 8) いいえ、みんな敵対して怒りました。
9) 信教の宣言 アラー（神様）のほかには神はない、そしてモハメットは神の使徒である。
毎日5回メッカに向かって神に祈る。 貧乏な人を助ける。 断食をする。 メッカに巡礼してカアバ神殿を回る。



皆さんのお子様のバハイ活動でみんなに役に立つ
いいお話、又は写真などがあれば、送ってください。
vb7mb7@bma.biglobe.ne.jp に送ってください。

ひるの星

№. 247

2011年9月発行

ひるの星をカラー印刷するには以下のリンクにアクセスしてください。

<http://www.bahaijpn.com/daystar.htm>

日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目2番13号

電話：03-3209-7521 FAX：03-3204-0773

ひるの星委員会：平原静志、平原ルアナ、原奈緒

協力

物語：平原ルアナ、

和訳：平原静志

写真：小島えり子、安岡直子、平原ルアナ、ジャーナルダン

絵：ステイファン・パスカル、ラリー・カーティス、バーバラ・キャスターライン、平原ルアナ、

サナ・マジズーブ、デール・モード、平本かおり

テクニカル・アドバイザー：尊田望

監修：平野祐一